

訂 正

日本史

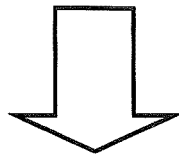
記 号 (S)

<訂 正>

「日本史」

3 ページ 上 から 1 5 行目

(誤) …光武帝より「漢委奴国王」の印綬を…



(正) …光武帝より印綬を…

上梓の内容を一字一句正しく板書してください。
板書した訂正内容に誤りがないかを必ず複数の監督者で
照合してください。

以 上

〔Ⅰ〕 次の(A)～(D)各文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

(A) 鎌倉時代には、公家の伝統的な文化と、新たに政治の担い手となった武士の文化が併存した。公家たちは、過去の栄華を懐かしみ尊重する思いから、朝廷の儀式や先例を研究する有職故実の学を深めた。順徳天皇が著した『(1)』に、その成果を見ることができる。一方、武士たちも学問の重要性を意識するようになり、北条氏一門の有力武家が鎌倉の外港六浦に設けた(2)は、関東一円の学問の拠点となった。

(B) 織田信長や豊臣秀吉が政権を掌握した時代には、ヨーロッパの国々との接触が盛んになり、さまざまな文化がもたらされた。イエズス会の宣教師らは、布教活動の一環として初等教育学校のセミナリオや高等教育学校のコレジオを設けた。そのなかの(3)は西洋の活版印刷機をもたらし、それによりポルトガル式のローマ字で表記された各種の書物が出版された。辞書としては、1603～04年に長崎で出版された『(4)』が知られる。また、このころヨーロッパからもたらされた文物のなかには、ポルトガル語を語源とする(5)など、現在でも日本語として用いられているものもある。

(C) 江戸幕府による支配が安定し、武力に頼らず儒教をもとに徳をもって治めようとする文治政治の時代になると、儒学が盛んになり、いくつかの学派が生まれた。朱子学派の一派(6)の祖、藤原惺窩の門人だった林羅山は、徳川家康の侍講となり、その後も林家は代々幕府の文教政策で重用された。また、実践による認識を重んじる陽明学派の熊沢蕃山は、著書の『(7)』で幕政を批判したことから弾圧され、幽閉先で病死した。さらに、孔子や孟子の原典に儒教の本質を見出そうとした古学派の(8)は、将軍徳川吉宗に重用され、享保の改革で大きな役割を担った。

(D) 8代将軍徳川吉宗の時代には、漢訳洋書の輸入制限がゆるめられた。これにより、オランダからもたらされる西洋の学術や知識を研究する蘭学が発達し、学問に実証的・科学的な意識が加わる。一方で、日本の古典を研究する国学も台頭し、塙保己一は幕府の援助を受けて(9)を設け、古代から近世までの国書の編纂を行った。また、この頃から全国の藩で藩士やその子弟の教育のため藩校が設立された。さらに、大坂では裕福な町人の出資により(10)が開設され、教育の対象は庶民にも広がった。

〔語群〕

- | | | |
|--------------|---------------|-----------|
| (ア) 金沢文庫 | (イ) 聖学 | (ウ) 蘭学階梯 |
| (エ) 出定後語 | (オ) 大学或問 | (カ) 和学講談所 |
| (キ) ヴァリニャーノ | (ク) 古義堂 | (ケ) ハルマ和解 |
| (コ) 昌平坂学問所 | (サ) ジャガイモ | (シ) 公事根源 |
| (ス) ブリキ | (セ) 日葡辞書 | (ソ) 蕃書調所 |
| (タ) 聖教要録 | (チ) 禁秘抄 | (ツ) 室鳩巢 |
| (テ) 北山抄 | (ト) 芝蘭堂 | (ナ) 京学 |
| (ニ) ルイス=フロイス | (ヌ) 閑谷学校 | (ネ) カルタ |
| (ノ) 南学 | (ハ) ガスパル=ヴィレラ | (ヒ) 荻生徂徠 |
| (フ) 懷徳堂 | (ヘ) 中江藤樹 | (ホ) 足利学校 |

〔Ⅱ〕 次の(A)・(B)各文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

(A) 弥生時代には、水稻農耕が普及し、農耕社会が形成されたが、一方で余剰生産物や耕地、用水などをめぐって戦いが始まった時代でもあった。

金属製の武器や防御施設を備えた集落が出現し、戦いが始まったことが、発掘された資料などから明らかになっている。例えば、「環濠集落」と呼ばれる、深い濠や土塁で囲んだ防御的集落として、佐賀県吉野ヶ里遺跡や奈良県(1)遺跡などが著名である。また、西日本の各地で戦いによる傷が残る人骨が発見されていることは、これを裏付けている。

戦いの始まりによって、強力な集落は周辺の集落を統合し、各地に「クニ」と呼ばれる政治的なまとまりが分立していった。この小国分立の様子は、中国の歴史書にも記載されている。『漢書』地理志によると、紀元前1世紀ごろの「倭人」の社会は(2)余国にわかれ、漢(前漢)が現在の平壤付近に設けた(3)に定期的に使者を派遣していたという。『後漢書』東夷伝によると、紀元後1世紀に倭の奴国の王が後漢に朝貢し、光武帝より「漢委奴国王」の印綬を賜ったとある。この奴国の王墓の一つと考えられるのが、福岡県(4)遺跡である。

戦いはその後も続いたと考えられるが、2世紀後半に大きな争乱が起こった。諸国は共同して邪馬台国の卑弥呼を女王として立てたところ、ようやく争乱はおさまり、ここに邪馬台国を中心とする連合体をつくったことが、「魏志」倭人伝に記載されている。卑弥呼は「鬼道(呪術)」にたくみで、夫はなく、弟が政治を補佐していたとある。晩年には(5)と争ったが、247年かその直後には亡くなったとみられる。

邪馬台国の所在については、大きく九州説と近畿説がある。近畿説の主張には、卑弥呼の墓と考えられる奈良県箸墓古墳がある纏向遺跡を邪馬台国とみることや、卑弥呼が魏から贈られた銅鏡を三角縁神獣鏡とみて、これが近畿地方から最も多く出土していることなどが挙げられている。三角縁神獣鏡のなかには、卑弥呼が魏に使者を送った年である「景初三年(239)」の銘を持つものがある。

(B) 古墳時代前期の3世紀後半ごろ、近畿地方から瀬戸内海沿岸にかけての西日本を中心に、前方後円墳と呼ばれる大規模な古墳がつくられるようになった。これら出現期の古墳は、墳丘の形、(6)という埋葬施設の構造、銅鏡や石製品などの副葬品などに強い共通性を持っていた。このような共通する墓制の背景には、古墳の出現に先立って広域の政治的連合が形成されていたことがある。また、出現期の古墳のなかでも最も規模の大きなものは、大和(現在の奈良県)にみられることから、この時期に大和の首長たちを中心とする広域の政治的連合であるヤマト政権が成立していたと考えられる。そして、前方後円墳を中心に、古墳の形や規模は、ヤマト政権内での政治的地位を反映しているとの見解もある。

古墳時代中期の5世紀には、大阪平野につくられた巨大な前方後円墳である、誉田御廟山古墳(応神天皇陵古墳)や大山古墳(仁徳天皇陵古墳)を含む(7)古墳群において、当時のヤマト政権の権力や権威の大きさをうかがうことができる。中期の巨大な前方後円墳は、このほかにも群馬県(上毛野)や岡山県(吉備)、宮崎県(日向)などにみられ、これらの地域の豪族がヤマト政権のなかで重要な位置を占めていたことがわかる。5世紀前半に築造された群馬県太田天神山古墳は、全長約210メートルの東日本最大の前方後円墳である。

倭王(8)が中国南朝に送った上表文(『宋書』倭国伝)は、ヤマト政権と地方との関係がうかがえる史料である。これによると、5世紀にヤマト政権の勢力圏が東西に大きく広がったことがわかる。また、埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳から出土した鉄剣や鉄刀の銘文からは、5世紀後半には大王の権力がこれらの古墳が所在する東国から九州にまでおよんでいたことが読み取れる。

さらにヤマト政権は、5世紀から6世紀にかけて、氏姓制度と呼ばれる政治体制を作り上げていった。豪族たちは血縁関係やその他の政治的関係にもとづいて氏に編成され、氏単位にヤマト政権の職務を分担し、大王は彼らに姓(カバネ)を与えた。例えば、職掌を氏の名とした大伴・物部などの有力豪族には(9)が与えられた。これらの姓の実例としては、6世紀ごろの(10)出土大刀の銘文にみられる「各田臣」(額田部臣)の文字がある。

大王権力の拡大に対しては、地方豪族の抵抗もあった。とくに大規模なものとして、古墳時代後期の6世紀初めに起こった磐井の乱がある。このような地方豪族の抵抗を排しながらヤマト政権は彼らに従属させ、各地に直轄領や直轄民を設けて支配を強化していった。

〔語群〕

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| (ア) 三雲南小路 | (イ) 百舌鳥・古市 | (ウ) 楽浪郡 |
| (エ) 横穴式石室 | (オ) 帯方郡 | (カ) 三十 |
| (キ) 唐古・鍵 | (ク) 岩戸山古墳 | (ケ) 池上曾根 |
| (コ) 済 | (サ) 宇木汲田 | (シ) 連 |
| (ス) 佐紀 | (セ) 百 | (ソ) 大和 |
| (タ) 岡田山1号墳 | (チ) 君 | (ツ) 狗奴国 |
| (テ) 投馬国 | (ト) 讃 | (ナ) 竪穴式石室 |
| (ニ) 大塚 | (ヌ) 横口式石槨 | (ネ) 臣 |
| (ノ) 稻荷台1号墳 | (ハ) 須玖岡本 | (ヒ) 五十 |
| (フ) 伊都国 | (ヘ) 玄菟郡 | (ホ) 武 |

〔Ⅲ〕 次の(A)～(C)の各史料に関する問1～問15について、(ア)～(ウ)の中から最も適当な語句を選び、その記号をマークしなさい。

(A) 金本位実施ノ必要モハヤ疑ヲ容レス。依テ爾^{じらい}来專ラ金吸収ノ方策ヲ求メタリ。恰モ好^よシ下ノ関条約ニ依リ清国ハ償金(①)億兩ヲ支払フコトヲ約セリ。然ルニ清国ハ償金支払ノ為メ公債ヲ欧州ニ於テ募集スルノ必要アルヲ以テ、彼我ノ便益ヲ計リ償金ハ(②)京ニ於テ金貨ヲ以テ受取ルコトニ追約セリ。茲^{ここ}ニ於テ金ノ吸収ニハ非常ノ便益ヲ得タリ。(中略)金本位ノ実施ハ欧米諸国貨幣市場ノ中心ト我国市場トヲ連絡セシメ、相互ノ間氣脈ヲ通スルノ便ヲ開キ貿易ノ發達期シテ俟^まツヘキナリ。而シテ支那^③朝鮮等ノ銀国ニ対シ金貨国ト競争ヲ為ス上ニ於テ、我ハ地形ノ接近其他生産上必要ナル事項ニ富メルヲ以テ深ク憂フルニ足ラサルヘシ。之ニ反シテ他日若シ銀価ノ下落一層甚シキニ至ルトキハ、支那朝鮮等ノ銀国ハ金貨国ニ対スル輸出貿易上多少競争ノ利ヲ占ムル所アルハ免レサルヘキモ、之レ亦一時ニ止リ、幣制改革ニ依テ生スル利益ト比較スルニ足ラサルナリ。之ヲ要スルニ貨幣ノ基礎今日ノ如ク動揺常ナクシテハ、決シテ經濟ノ確實ト貿易ノ發達トハ望ムヘキニアラス。

(『日本金融史資料 明治・大正編』)

問1 この史料は、1897年2月の閣議で当時の首相兼蔵相が貨幣法案の提出理由を述べたものである。その首相兼蔵相は誰か。

(ア) 伊藤博文 (イ) 松方正義 (ウ) 大隈重信

問2 文中の(①)に入る語句はどれか。

(ア) 壹 (イ) 貳 (ウ) 参

問3 文中の(②)に入る語句はどれか。

(ア) 英 (イ) 仏 (ウ) 独

問4 下線部③「朝鮮」に関連して、この1897年に国号を「大韓帝国」と改めて、
皇帝となった国王は誰か。

- (ア) 大院君 (イ) 高宗 (ウ) 純宗

問5 日本は貨幣法により金本位制を採用したが、やがてこれを離脱する。そ
れはいつか。

- (ア) 1907年 (イ) 1917年 (ウ) 1927年

(B) 謹んで^{おもんみ}惟るに、我が神州たる所以は万世一系たる天皇陛下御統帥の下に、
挙国一体生成化育を遂げ、遂に八紘一字を^{まっとう}完うするの国体に存す。此の国体
の尊厳秀絶は天祖肇国、(④)建国より明治維新を経て益々体制を整へ、今
や方に万邦に向って開頭進展を遂ぐべきの秋なり。然るに頃来遂に不逞凶悪の
徒^{まさ}簇^{ぞくしゅつ}出して私心我欲を^{ほしいまま}恣にし、(中略)随って外侮外患日を逐うて激化す。
所謂元老・重臣・軍閥・財閥・官僚・政党等はこの国体破壊の元兇なり。
(⑥)軍縮条約、並に教育総監更迭に於ける統帥権干犯・至尊兵馬大権の^{せん}僭
窃^{せつ}を図りたる三月事件、或は^{がくひ}学匪、共匪、大逆教団等の利害相結んで陰謀至ら
ざるなき等は最も著しき事例^⑦にして(中略)中岡、佐郷屋、血盟団の先駆捨身、
五・一五事件の^{ふんとう}憤騰、相沢中佐の^{せんぱつ}閃発となる、^{まこと}寔に故なきに非ず。(中略)内
外真に重大危急、今にして国体破壊の不義不臣を^{ちゅうりく}誅戮^{みいつ}し、稜威を遮り御維新
を阻止し来れる^{かんぞく}奸賊^{さんじょ}を芟除するに非ずして^{こうぼ}宏謨を一空せん。

(『現代史資料』)

問6 この史料は、二・二六事件の^{けっき}蹶起趣意書である。この事件で皇道派青年
将校らの襲撃を受けたが、難を逃れた当時の首相は誰か。

- (ア) 岡田啓介 (イ) 米内光政 (ウ) 鈴木貫太郎

問7 文中の(④)に入る語句はどれか。

- (ア) 天智 (イ) 仁徳 (ウ) 神武

問 8 下線部⑤「財閥」に関連して、当時は明治期以来の財閥に対し、軍部と結び付いて満洲・朝鮮に進出する新興財閥も台頭していた。そのうち、鮎川義介が結成したコンツェルンはどれか。

(ア) 日産 (イ) 日窒 (ウ) 日曹

問 9 文中の(⑥)に入る語句はどれか。

(ア) 倫敦 (イ) 華盛頓 (ウ) 寿府

問10 下線部⑦「学匪」に関連して、二・二六事件の前年に天皇機関説問題で貴族院議員を辞任した憲法学者は誰か。

(ア) 菊池武夫 (イ) 上杉慎吉 (ウ) 美濃部達吉

(C) 祖国の民主平和憲法のもとへの即時無条件全面返還を要求しつづけた県民の立場に立って考えるとき、今回の日米共同声明の内容には満足しているものではない。

一、その第一は「核ぬき、本土なみ、七二年返還」で所期の目的を達成したというが核基地撤去、^⑧B 5 2 の扱い、その他(⑩)協議の運用をめぐる憂慮^⑨される問題を残していることである。第二は沖縄の米軍基地を要とした現在の日米安保条約を長期的に継続する方針がとられたことである。沖縄県民はさる大戦で悲惨な戦争を身をもって体験し戦争とこれにつながるいっさいのものをにくみ、否定する。長い間米軍基地に苦しめられてきた県民は、その沖縄基地を要とする安保体制を容認することはできない。(中略)

一、第三は沖縄の全地域にわたって配備された強大な米国の軍事基地は、施政権返還後もほとんど、そのまま維持されるようになるということである。従って、基地の密度や規模などからして、基地の「本土なみ」返還ということには疑問と不安が残る。(中略) 返還後の米軍基地の問題^⑪は単に沖縄県民だけでなく、日本国民全体がみずからの運命を決定する重大な課題として、真剣に取り組まなければならない。

(『朝日新聞』)

問11 この史料は、沖縄返還に関する日米共同声明に対して、屋良朝苗が発表した声明である。当時の屋良が務めていた職はどれか。

(ア) 沖縄県知事 (イ) 琉球政府行政主席 (ウ) 内閣官房長官

問12 下線部⑧「核ぬき」に関連して、「非核三原則」を掲げた首相は誰か。

(ア) 岸信介 (イ) 池田勇人 (ウ) 佐藤栄作

問13 下線部⑨「B 52」は、ベトナム戦争に際して沖縄に常駐化したアメリカの長距離爆撃機である。この戦争でアメリカが支持した国家・勢力はどれか。

(ア) 北ベトナム (イ) 南ベトナム解放民族戦線 (ウ) 南ベトナム

問14 文中の(⑩)に入る語句はどれか。

(ア) 事前 (イ) 随時 (ウ) 事後

問15 下線部⑪「返還後の米軍基地の問題」に関連して、2009年の衆議院議員総選挙で民主党が自由民主党に圧勝した後、普天間基地の県外移設に取り組んだものの、断念に至った首相は誰か。

(ア) 鳩山由紀夫 (イ) 菅直人 (ウ) 野田佳彦

〔Ⅳ〕 次の先生と学生の会話文の(1)～(15)について、(ア)～(ウ)の中から最も適当な語句を選び、その記号をマークしなさい。

先生：新型コロナウイルス感染症の流行もようやく下火になって、高校や大学の授業もほぼコロナ前に戻りました。3～4年間抑えられていた旅行需要が大きく伸びています。円安の影響もあって、海外から来日する旅行者の数も一気に増えてきました。

学生A：大学へ通う電車の中や駅のプラットフォームでも、外国人観光客の姿をみかけることが多くなりました。

学生B：いわゆるインバウンド観光が好調で、日本を訪れる外国人旅行者が急増しているんですね。

学生C：外国人観光客にとくに人気が高い観光地があり、その観光地の周辺はすごく混み合っていて、交通渋滞も激しくなっています。

先生：とくに人気の高い観光地はどのあたりですか。

学生C：やっぱり京都の伏見稲荷大社の人気がすごいですね。

学生B：先月、友人と一緒にやってきたのですが、大勢の外国人観光客が押し寄せていました。

先生：そうだね。とくに朱色の千本鳥居の立ち並ぶ景色が目を引くようで、とてもメジャーな観光名所となっているね。ところで、伏見稲荷大社と関係の深い古代の氏族のことは知っていますか。

学生A：古代の山背(山城)国には、渡来系氏族の(1){ア 秦氏 (イ) 漢氏 (ウ) 文氏}が本拠地をもっていました。

学生B：現在の嵐山や深草のあたりに住みついて繁栄していたのですね。古くはこの氏族が伏見稲荷大社の祭祀をつかさどっていたといわれています。

先生：そう、よく知っているね。その豊かな財力によって、6世紀には朝廷財政の運用にも関与したようだ。

学生C：嵐山の近くにある(2){ア 仁和寺 (イ) 大覚寺 (ウ) 広隆寺}はこの氏族の氏寺だったのですね。

先生：そう、美しい半跏思惟像が安置されていることでも有名だよ。

学生B：京都では清水寺も外国人観光客に大人気の場所ですね。

学生C：清水寺は延鎮が創建した寺院ですが、延鎮に帰依して清水寺の整備に尽力したのは(3){ア 藤原冬嗣 (イ) 坂上田村麻呂 (ウ) 文室綿麻呂}です。

学生A：桓武天皇の時代に東北地方に遠征して、朝廷の領土を大きく広げた人物ですね。

先生：そうだよ。清水寺から少し離れた場所にその人物のお墓も建てられたようで、2007年にはその場所も特定されて、新聞でも報道されました。

学生B：清水寺は災害や戦乱で何度も損壊しているので、創建当初の建物はあまり残されていないのですよね。

学生C：崖に沿って建てられている巨大な本堂は江戸時代のものですよね。

先生：大きな舞台をもつ懸造の本堂は、寛永10年(1633)に将軍徳川(4){ア 家康 (イ) 秀忠 (ウ) 家光}の援助で造営されたものです。

学生A：年末の「今年の漢字」を発表する場所としても有名になりました。

学生B：大阪にも外国人観光客が押し寄せる場所がたくさんありますね。

学生C：5月の連休に大阪城に行きましたが、すごい人波で身動きするのも大変でした。大坂城は豊臣秀吉が天正11年(1583)から築きはじめたものです。

学生A：(5){ア 山崎の戦い (イ) 賤ヶ岳の戦い (ウ) 小牧・長久手の戦い}によって、秀吉が織田信長の後継者としての地位を確かなものにした年に築城をはじめたのですよね。

先生：そう、大坂本願寺の跡地に本丸と二の丸を造営したとみられています。

学生A：大坂城の天守閣は大坂夏の陣で焼亡し、その後に再建された天守閣も落雷で焼失したらしいのですが、大坂城の場所は明治維新後にどうなったのですか。

学生B：明治4年(1871)、大坂城の跡地に大阪(6){ア 鎮台 (イ) 府庁 (ウ) 鎮守府}が設置されました。

先生：その通り。その後、明治21年(1888)には第四師団に継承されました。

現在の大阪城天守閣が再建されたのは、昭和6年(1931)のことです。

学生A：その昭和6年に、いまでも大阪城天守閣のそばにある建物が、第四師団の

司令部として建てられたのですね。

学生B：戦後は長く博物館になっていましたが、最近は飲食店などが入る施設にリノベーションされています。

学生C：大阪では道頓堀も人気の高い観光地ですね。

先生：道頓堀は、江戸時代のはじめに開削された東西方向の運河だよ。その後、ここに芝居小屋がたくさん建てられて、大坂随一の盛り場となっていった。

学生C：古代には海が御堂筋あたりまで迫っていて、現在の淀屋橋の付近は大阪湾に面した風光明媚な場所だったと聞いています。

学生A：大阪城が位置する上町台地の北端近くには、7世紀中ごろに(7) {ア} 推古 (イ) 舒明 (ウ) 孝徳}天皇が都を置きました。

学生B：その都の跡は戦後に発見され、大阪城公園のすぐ南側に建物などが復元されています。

学生C：奈良では奈良公園に多くの人が集まっていました。外国人観光客には東大寺の大仏が人気です。聖武天皇は最初、(8) {ア} 恭仁京 (イ) 紫香樂宮 (ウ) 難波宮}において大仏を造立しようとしたのですが、結局は平城京に戻ったのちに、京の東郊に東大寺を建て、ここに大仏を鑄造しました。

先生：そう、よく知っているね。天平勝宝4年(752)に行われた大仏開眼供養会では、渡来僧の(9) {ア} 道璿 (イ) 菩提僊那 (ウ) 鑑真}が開眼師となり、大仏の眼に黒目を書き入れました。

学生C：奈良の大仏や大仏殿は源平争乱期に焼損しますが、その復興に尽力したのは重源という僧です。

学生A：重源は(10) {ア} 北宋 (イ) 南宋 (ウ) 元}から陳和卿という技術者を招いて大仏の鑄造を進め、周防国から材木を運んで大仏殿を再建しました。

学生B：かつて日本に来た外国人や外国の技術が日本文化の一端を形作り、それを現在、国内外の人びとがながめて感動するというのはおもしろいことですね。

先生：そうだね、日本の文化遺産も諸外国のさまざまな文化から影響を受けて形作られたことを意識しないといけないね。

学生A：両親の実家が金沢なので、夏休みには金沢に行きますが、最近はやはり外国人観光客が増えています。とくに加賀藩の庭園として名高い（ 11 ）{ア 後樂園 (イ) 偕樂園 (ウ) 兼六園}が人気です。

学生C：5代藩主の前田（ 12 ）{ア 綱紀 (イ) 利家 (ウ) 利常}が蓮池庭を整備し、12代藩主の前田斉広が拡張して、現在のような回遊式の大庭園となりました。

学生C：（ 12 ）は学芸を好み、書籍の収集につとめた藩主で、木下順庵・室鳩巢らの学者を招いたことでも有名です。

先生：そう、よく知っているね。『（ 13 ）』{ア 経済録 (イ) 庶物類纂 (ウ) 大和本草}を著した稻生若水もこの藩主の時代に儒者として召し抱えられているよ。

学生B：関西やその周辺でもこのような賑わいなので、東京にも多くの外国人観光客が押し寄せているのでしょうね。

学生C：先日、実習で東京に行ったときにそれは実感しました。とくに浅草寺あたりでは写真撮影をする人垣ができていました。

先生：浅草寺には江戸時代から仲見世(門前町)が発達していて、見世物小屋などもできて人びとが集まる娯楽街になっていたようだ。

学生A：明治以後は東京市の公園が整備されて、映画館や演劇場の集まる浅草六区は盛況をきわめたというよ。

学生B：（ 14 ）{ア 川端康成 (イ) 谷崎潤一郎 (ウ) 永井荷風}が著した『浅草紅団』には、関東大震災後の浅草の風俗が描かれています。

学生C：新感覚派を代表する大阪生まれの作家だね。

先生：そう、浅草は戦前・戦後を通じて大衆文化の中心地として発展したんだ。（ 15 ）{ア 美空ひばり (イ) 川上音二郎 (ウ) 榎本健一}は浅草で人気を博し、のちに一座を結成してミュージカルなどで活躍して、喜劇王と呼ばれた。

学生A：笠置シズ子と共演したことでも有名です。NHKの連続ドラマでもやっ

ていましたね。

先生：訪日外国人が増えすぎて、いくつかの問題も起こっていますが、海外から来た多くの人びとが日本文化を体感し、楽しんでいるのは、うれしいことですね。外国人の視点からみると、新たな日本文化の側面に光が当たる可能性もあります。そうした面から私たちも学んでいきたいものです。

(以上)